## の「までい

8





学ぶ意欲は高く、村人たちも学 切に、人々が助け合う温かな暮 れるのでは」と考えました。 ら自分を見つめ直す機会を得ら オスを通して世界を学び、そこか は、「飯舘村の子どもたちが、ラ らしがありました。広瀬教育長 んが、ドンニャイ村には、家族を大 す。経済的な豊かさはありませ 校にとても協力的なのだそうで 交流事業も始まりました。

成22年には、飯舘中学校の生徒 ドンニャイ中学校の生徒に読

で編んだ壁も傷んでいました。 室は土間で雨期にはぬかるみ、竹 ニャイ中学校も同様でした。教 どで、それは支援先となったドン スの山間へき地の学校は、電気も 井戸もない粗末な校舎がほとん 職員が、現地を訪れました。ラオ 月、広瀬要教育長(当時)と村の 学校建設支援の活動がスタ しかしながら、子どもたちの したのを受けて、平成22年2



新校舎建設前のドシニャイ中学校。生徒の皆さんの明るい表情が印象的です



学校の英語の授業などで、今も の絵本のプレゼントが。日本から 25冊を携えてラオスを訪れま 成23年2月に、村の職員らがその んでもらおうと絵本を英訳。 さん。どこか飯舘村民に似ていま 届けられた絵本は、ドンニャイ 大切に活用されているそうです にも住民が力を合わせていまし に自然に応えるドンニャイ村の皆 相手の思いを受け止め、それ 用地の整備など、学校建設 学校から した民話

を出し合いました。お金を出せ できる限り力になりたいと、お金 てに飯舘村へ届けてくれました 寄り、それをお金に替えて、人づ い人は育てていたニワトリを持ち ない人は米を、米を出すのも難し 村のために祈りました。そして、 ドンニャイ村の人たちは、飯舘





広報 いけるで 平成28年11月号 平成28年11月号 広報 いしたて